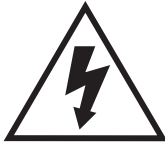


取扱説明書

【重要】安全にお使いいただくために



注意

内部を開けないでください。
感電の恐れがあります。



警告：火災や感電を防ぐため、ねじ等を外さないでください。このなか一般使用が可能な部品はありません。製品に問題がある場合はメーカーまでお問い合わせください。

警告：火や感電を防ぐため、製品を雨や湿気にさらさないでください。

注意：本製品は米国連邦通信委員会（FCC）により定められたFCCルールのPart 15に基づくクラスBデジタル機器に準拠するようテストおよび製造されています。操作は以下の2つの条件下で行われます：(1) 本機は有害な干渉を引き起こさないこと。(2) 本機は意図しない誤操作を引き起こす可能性のある干渉を含め、他からのいかなる干渉も受け入れること。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



電池の廃棄に関する情報：このマークは、製品に含まれる電池が通常のごみとして扱えないことを示しています。自治体の自主的判断によって分別回収を行っている場合もありますので、廃棄方法は各市町村の指示に従ってください。正しく廃棄することでリサイクルに利用されるとともに、環境や健康にも影響を与えないようにすることができます。なお、電池は完全に放電した状態、またはショートしない状態でのみ回収されます。廃棄方法の詳細は、各市町村にお問い合わせください。



このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。



お読みください【重要】安全にお使いいただくために本取扱説明書は安全な場所に保管しておいてください



1. このパイロット・ハンドブックの警告には全て従ってください。
2. 暖房機器や発熱する機器の近くに設置しないでください。
3. 異物や液体から本機を保護してください。
4. 電源コードを踏まないでください。電源コードが挟まれたり曲がると損傷する恐れがありますので、決してコードの上に物を置かないでください。
5. 長時間使用しない場合はVariaxの電源プラグをコンセントから抜いてください。
6. Variaxパイロット・ハンドブックに記載されている以外の点検、修理、部品交換等はいしないでください。パイロット・ハンドブックに記載されている範囲を超えた修理や点検等は、資格のあるサービス技師に依頼してください。
7. 大音量で長時間使用すると、難聴や聴力障害を起こすことがあります。常に安全な音量で使用することを心がけてください。

ご注意：

Line 6、Variax、PODとLine 6及びVariaxロゴは、Line 6、Incの登録商標です。James Tyler®は、James Tylerの登録商標であり、許可を得て使用しています。他の全ての製品名、登録商標、及びアーティスト名はそれぞれの所有者の権利に基づくものであり、Line 6社との関連、あるいは提携関係はありません。製品名、画像およびアーティスト名は、Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった製品の音色とサウンドを識別するためにのみ使用しています。これらの製品名、商標、画像およびアーティスト名の使用において、いかなる協力関係もエンドースメントもありません。

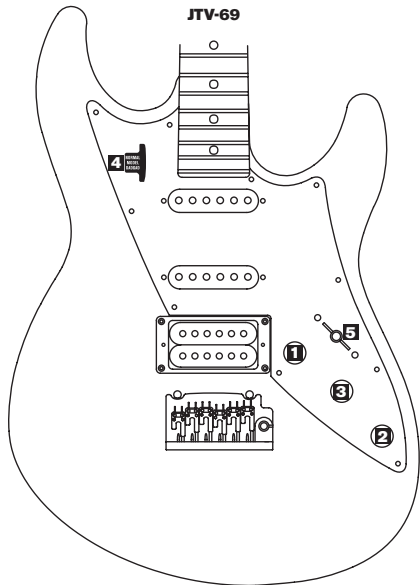
JTV-59US、JTV-69US、JTV-89USには以下のアクセサリが付属します：

ハードシェル・ケース、リチウムイオン電池×2個、充電器、ブリッジサドル用六角レンチ、トラスロッド用レンチ

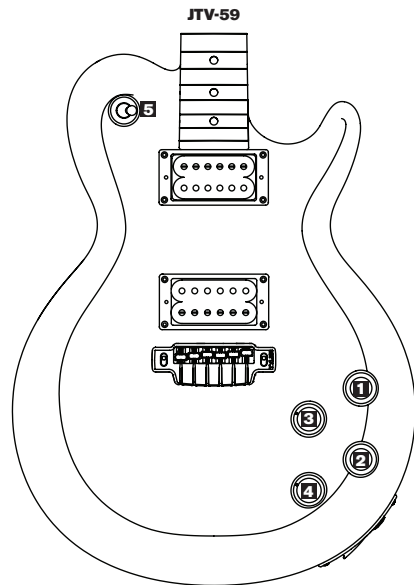
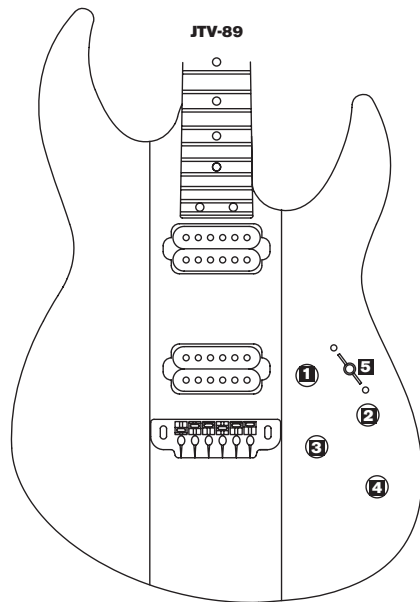
JTV-59、JTV-69、JTV-89には以下のアクセサリが付属します：

ギグバッグ、リチウムイオン電池×1個、充電器、ブリッジサドル用六角レンチ、トラスロッド用レンチ

基本操作



1. **ボリューム・コントロール**—ギターの信号出力レベルを調整します。
2. **トーン・コントロール**—高周波の通過量を調整します。
3. **ギター・モデル・セレクター**—このノブを押し込むと(LEDが点灯)、10種類のVariaxギター・モデル・バンク、ユーザー定義可能な2種類のカスタム・モデル・バンクにアクセスできます。Variaxモードの場合、**ギター・モデル・セレクター**のLEDにより選択中のギター・モデル・バンクが点灯します。各バンクには5種類のモデルが収められており、**セレクター・スイッチ**のポジションで選ぶことができます。マグネティック・ピックアップを使用するには、このノブを再度押します(LEDが消灯)。

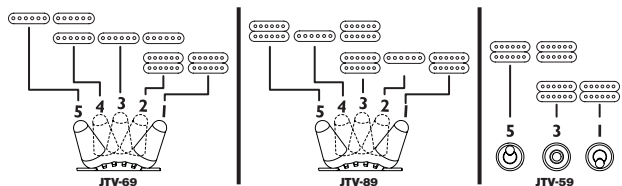


4. **オルタネート・チューニング**—Variaxモードで**オルタネート・チューニング・ノブ**を演奏中に使うと、予めロードされている10種類のオルタネート・チューニング(変別チューニング)へ素早くアクセスできます。お気に入りのチューニングが用意されていない場合も、心配は無用です。自分で作成したカスタム・チューニングをストアすることもできます(詳細は後述)。本体とアンプからの(チューニングの変更された)音が混ざることによって奇妙なモジュレーションが聞こえる場合があるので、ギター本体の音が聞こえない程度にシグナルの音量を増幅しておきましょう。

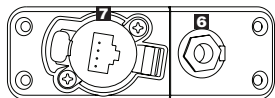
MODEL に設定すると、ギターチューニングは現在選んでいるギターモデルと**セレクター・スイッチ**のポジションで決まります。実際に試してみましょう。まず Variax モードに入り CUSTOM 2 を選びます。ここは初期設定でオルタネート・チューニングが設定されている唯一のバンクです。次にセレクター・スイッチを切り替えて、各モデルに設定されているチューニングを試してみます。**Variax Workbench** ソフトウェアを使えば、**ギター・モデル・セレクター・バンク**の中のどのギター・モデルにもオルタネート・チューニングを割り当てることができます。

オルタネート・チューニング機能をバイパスするには、**オルタネート・チューニング・ノブ**を **STANDARD** にセットします。スタンダード・モードの場合、Custom 2 バンク内のオルタネート・チューニングを使用したモデルを含めて、全ての Variax モデルがスタンダード・チューニングになります。

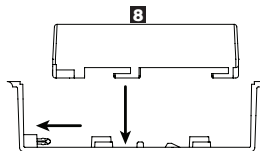
5. **ピックアップ・セレクター・スイッチ**—アナログモードでは、セレクターでマグネティック・ピックアップを以下のように操作します。(1=リア/ 5=フロント)



Variax モードでは、選択したモデルによりスイッチの働きが変化します。詳細は、"**Variax のギター・モデル**"をご覧ください。



6. **アナログ出力**—一般的な 1/4 インチ・ギターケーブルをここに接続します。
7. **VDI デジタル出力**—Variax デジタル・インターフェース (VDI) 対応の Line 6 ハードウェアに接続する場合に使用します。この出力に接続するときは、Line 6 Variax デジタル・ケーブルのみを使用してください。



8. **電池ケース**—上記のイラストを参照してください。初めてご使用になるときは、あらかじめ付属のリチウムイオン電池を充電器で最高レベルまで充電してください。最高レベルまで充電された電池は、最短でも 12 時間の使用が可能です。電池の残量を確認する場合は、**バッテリーチェック・ボタン**を押します：

LED×4個が点灯=9時間以上

LED×3個が点灯=6時間以上

LED×2個が点灯=3時間以上

LED×1個が点灯=3時間未満

LED×1個が点滅=残量が1時間未満なので、充電が必要です。

注意：POD X3 Live などの VDI デジタル入力端子を備えたハードウェアや、TRS ケーブルを利用したオプションを使うと、電池を使用せずに Variax へ電源を供給することができます。

Variaxのギター・モデル

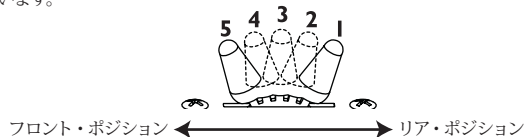
Variaxの各モデル・バンクには、ピックアップ・セレクター・スイッチの各ポジションに、計5種類の異なるモデルが用意されています。その全てが同じギターをもとにしている場合も、**ACOUSTIC**や**RESO**バンクのように全く異なる楽器の場合もあります。

エレクトリック・モデルの場合、**ボリューム**と**トーン**のノブはオリジナルのギターのノブと同じような働きをします。例えばボリューム・ノブを下げると、音色もわずかに暗くなります。各モデルの出力レベルは、オリジナルのギターを基準にしています。例えばハムバッキング・ピックアップを搭載したモデルは、シングル・コイルのモデルよりも音量は大きくなる傾向があります。

アコースティック・モデルの場合、**ボリューム**・コントロールは単なるレベル・コントロールとして機能します。アコースティック・ギターはトーン・コントロールを持たないため、**トーン**・ノブを使ってモデリングしたマイクの位置を変えられるようにしました。ノブを回して、トーンの変化を試してみてください。

JTV-69 & JTV-89のピックアップ・ポジション番号

このマニュアルでは、**ピックアップ・セレクター**のポジションに関して、最もリア(ブリッジ)側を「1」としました。そこから順番に「2」、「3」、「4」とし、最もフロント(ネック)側を「5」としています。



JTV-59のピックアップ・ポジション番号

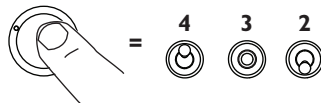
3ウェイの**ピックアップ・セレクター**・**スイッチ**を搭載した製品の場合も、各モデル・バンク内の5モデル全てへアクセスできます。

このマニュアルではポジションに関して、最もリア(ブリッジ)側を「1」としました。その次を「3」、最もフロント(ネック)側を「5」としています。**オルタネート・チューニング・ノブ**を押すことで、アクセスできるモデルが「1-3-5」と「2-3-4」へ交互に入れ替わり、「2」と「4」も選択できるようになります。



または

オルタネート・
チューニング・ノブ



T-MODEL



1960年製Fender® Telecaster® Customをベース*としています。

レオ・フェンダー氏のTelecaster®はもともとBroadcasterと呼ばれ、ソリッドボディのエレキギターとしては初めて商業的に成功したモデルです。以来50年以上にわたって現在もお生産され続けています。注：このモデルのフロント・ポジションは、オリジナルの非常にディープなサウンドで、トーン・コントロールはバイパスされています。ポジション1：リア、ポジション2：ワイドレンジ・ハムバックング（リア）、ポジション3：リア+フロント、ポジション4：ワイドレンジ・ハムバックング（フロント）、ポジション5：フロント

ポジション1：リア、ポジション2：ワイドレンジ・ハムバックング（リア）、ポジション3：リア+フロント、ポジション4：ワイドレンジ・ハムバックング（フロント）、ポジション5：フロント

SPANK



1959年製Fender® Stratocaster®をベース*としています。

曲線美を誇るStratocaster®も、レオ・フェンダー氏の非凡な才能を証明するモデルです。1954年の発売当時には革新的だとされたStratocaster®は、その美しい輪郭のボディとボルトオン・ネック、対応力の優れたエレクトロニクスが他のエレキギターへ大きな影響を与え、業界標準の機能となりました。このモデルはオリジナルとはわずかに異なり、リア・ピックアップにもトーン・コントロールが機能するようになっていました。レオも、きっと分かってくれるでしょう……。

ポジション1：リア、ポジション2：リア+センター、ポジション3：センター、ポジション4：フロント+センター、ポジション5：フロント

LESTER



1959年製Gibson® Les Paul® Standardをベース*としています。

Gibson初のソリッドボディのギターデザインは、人気ギタリストでありレコーディングのバイオニアでもあるレス・ポール氏とのコラボレーションにより製作されました。生産し易いFenderのデザインとは対照的に、Les Paul®は従来のホローボディの緩やかに盛り上がったトップとセット・ネック構造をそのまま引き継いでいます。オリジナルのシリーズは商業的には成功せず、1961年に生産打ち切りになりました。その後、再び関心を集めたことから1968年に再登場しています。

ポジション1：リア、ポジション2：P90リア、ポジション3：リア+フロント、ポジション4：P90フロント、ポジション5：フロント

SPECIAL



1955年製Gibson® Les Paul® Specialをベース*としています。

1955年、実用型のJuniorとデラックス版のStandardとの中間モデルとしてLes Paul®ラインに加わったのがSpecialです。2基目のP-90を追加した事で音色の幅がさらに広がり、レゲエの伝説的存在、ボブ・マーリーの愛用ギターとなりました。Variaxのモデルは、オリジナルのシングル・カッタウェイのバージョンをベースとしています。

ポジション1：リア、ポジション3：リア+フロント、ポジション5：フロント

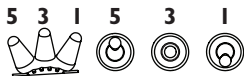


1976年製 Gibson® Firebird V をベース*としています。

1963年に登場したFirebirdは、デトロイトの有名な自動車デザイナー、レイ・ディートリック氏の協力を受けて製作されました。スルーネックの構造とEpiphone®スタイルのミニハムバッカーによってFirebirdは心地よいサステインと切れ味のある高域を持つユニークなサウンドとなり、この特性によってブルース・スライドギターの伝説、ジョニー・ウィンターのお気に入りとなりました。

ポジション2：リア、ポジション4：フロント

R-BILLY



1959年製 Gretsch® 6120 をベース*としています。

6120は、カントリー・ギターのエキスパート、チェット・アトキンスの協力で開発された初期のGretsch®モデル数種類の中のひとつです。この6120はデュアン・エディやエディ・コラン、プライアン・セツァーなど“トワンギー”なプレイヤー達を連想させるサウンドです。Variaxのモデルには、Filtertron®のハム・キャンセル用ピックアップが搭載されています。

ポジション1：リア、ポジション3：フロント+リア、ポジション5：フロント



1959年製 Gretsch® Duo Jet をベース*としています。



Gretschは、このシリーズを1955年に発売しました。Gretschはソリッドボディと呼んでいましたが、Jetシリーズは実際にはホローチェンバーで、それにより軽量で、共鳴するトーンを生み出しますブラック・バージョン(Duo-Jet)は、ジーン・ヴィンセント・ブルー・キャップスのオリジナル・メンバーだった、リード・ギターのクリフ・ギャラップのお気に入りギターです。モデリングしたオリジナル・ギターにはDeArmond®ピックアップとMelitaブリッジが搭載されていました。

ポジション2：リア、ポジション4：ネック

CHIME



1966年製 Rickenbacker® 370 をベース*としています。

12弦ギターの人気で影が薄くなってしまいましたが、6弦のRickenbackerのスタイリッシュなモデルもレディオヘッドのエド・オブライエンなど、普通とはちょっと違ったものを求めるプレイヤーには相変わらず人気があります。

ポジション1：リア、ポジション3：リア+フロント、ポジション5：フロント



1966年製 Rickenbacker® 370-12 をベース*としています。

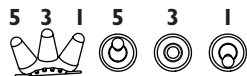
ビートルズのジョージ・ハリソンやパーズのロジャー・マッギンのおかげで人気の出た12弦 Rickenbacker®の“ジャリーン”という響きは、60年代のロックサウンドに大きな貢献をしました。Variaxのモデルはオリジナルの「トースター型」ピックアップを搭載したものです。

ポジション2：リア、ポジション4：フロント



*全ての製品名は、その商標の該当所有者の権利に基づくものであり、Line 6社との関連、または提携関係は一切ありません。これらの製品名および記述は、Line 6社のサウンド・モデル開発中に研究対象となった特定の製品を識別するためにのみ使用しています。Gibson®、Les Paul®およびEpiphone®は、Gibson Guitar Corp.の登録商標です。Gretsch®は、Fred W. Gretsch Enterprises, Ltd.の登録商標です。DeArmond®は、Fender Musical Instruments Corporationの登録商標です。

SEMI



1961年製Gibson® ES®-335をベース*としています。

セミ・ホローのGibson®はソリッドボディの音色とサステイン、ホローボディのバランスと美しさをブレンドしたギターです。ラリー・カールトンなどのジャズ・アーティスト、B.B.やアルバート・キングらのブルース・ギタリストが、その“ウッディ”なトーンでファンを魅了しました。Variaxのモデルは1961年のドット・ネックで、P.A.F. ピックアップとストップ・テールピースを搭載しています。

ポジション1：リア、ポジション3：リア+フロント、ポジション5：フロント

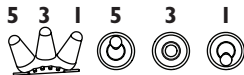


1964年製Epiphone® Casino をベース*としています。

1957年にGibsonは、ライバル社のEpiphoneを傘下におさめ、そのカラマズー工場ではEpiphone®ギターを生産し始めました。John Lennonは特にCasinoを気に入りビートルズ解散後も長い間レコーディングに使っていました。このCasinoはP-90ピックアップを搭載しています。

ポジション2：リア、ポジション4：フロント

JAZZBOX



1954年製Gibson® ES®-175をベース*としています。

GibsonのES®-125モデルにシャープな「ベネチア風」カタウエイと上品なフィンガーボードを加えたのがES®-175です。1953年にはP-90ピックアップがもう1基追加され、ジャズ・ギタリストに人気のモデルになりました。

ポジション1：リア、ポジション3：リア+フロント、ポジション5：フロント

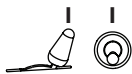


1953年製Gibson® Super 400をベース*としています。

1940年代終盤には音楽スタイルの変化により、Super 400のようなプレミアム・アーチトップの音量では不十分になりました。初期のエレキギター用にピックアップとコントロール類を加えることによって、1951年にGibsonはSuper 400のエレキ・バージョンを製作しました。Variaxのモデルは、P-90のバージョンをベースにしています。スコットのムア(とエルヴィス) '68年の『カムバック・スペシャル』で弾いているSuper 400を聴いてみてください。

ポジション2：リア、ポジション4：フロント

ACOUSTIC



1959年製 Martin® D-28をベース*としています。

D-28はMartin®のフラットトップの定番とされています。ドレッドノート(通称D)ボディはローズウッドのバックとサイドの組み合わせで、フラットピッキングに理想的なフル・サウンドを生み出します。



1966年製 Guild® F212をベース*としています。

Guildのジャンボな12弦ボディからは、ボリューム感と明瞭感というこの上ない組み合わせが得られます。モデルとなったギターは、バックとリムがマホガニーのF212です。



1970年製 Martin® D12-28をベース*としています。

1970年、Martinは好評のD-28に6弦を追加して、当時のフォーク・ミュージックのブームに乗りました。



1995年製 Gibson® J-200をベース*としています。

そのサイズの大きさと凝った装飾が特徴のJ-200は、派手好みのカントリー/ウエスタン・アーティストが好んで弾いています。エルヴィス・プレスリーも後年気になって弾いていました。



1967年製 Martin® O-18をベース*としています。

小型の「気軽に座って弾ける」サイズのボディで、フィンガースタイル奏法に理想的なバランスのとれたトーンを生み出します。

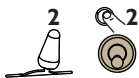


1935年製 Dobro® Model 32をベース*としています。

通常 Dobro®はウッドボディですが、このモデルとなったギターは、全体にアルミニウムを使い中域を強調した珍しいギターです。

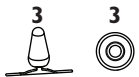


* 全ての製品名は、その商標の該当所有者の権利に基づくものであり、Line 6社との関連、または提携関係は一切ありません。これらの製品名および記述は、Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった特定の製品を識別するためにのみ使用しています。Martin®は、Dreadnought, Inc.の登録商標です。Guild®は、Fender Musical Instruments Corporationの登録商標です。Dobro®および Gibson®は、Gibson Guitar Corp.の登録商標です。Coral Sitar®と Jerry Jones Shorthorn®は、Jerry Jonesの登録商標です。Danelectro®は、Evetts Corporationの登録商標です。National®は、Kaman Music Corporationの登録商標です。



Coral Sitar®からインスパイア*されています。

Coral Sitar®は、新しい楽器としてギタリストがシタルの弾き方を覚えなくても特有の唸りとドローンを出せる楽器です。Variaxのモデルでは、トーン・コントロールでドローン弦のレベルを調整します。



1999年製 Jerry Jones Shorthorn®をベース*としています。

60年代、Danelectroはマソナイトとリップスティック・チューブから素晴らしいサウンドのギターを生み出しました。90年代になり、Jerry Jonesは同様の素材を使って60年代の伝統を継続。このモデルはフロントとリアのピックアップがアクティブになっています。



Gibson® Mastertone バンジョーからインスパイア*されています。

Mastertoneシリーズは1925年に発売され、たちまちブルーグラス・バンジョーの定番となりました。



1928年製 National® Tricone をベース*としています。

Triconeは3つの6インチ・コーンをブリッジにつなげて弦の振動を増幅しています。Triconeは、後のシングル・コーンのレゾネーターよりもスムーズなサウンドです。



カスタム・ギターを作る

Variaxモードの幅広さと対応力を、特に演奏時に最大活用するには、重要なサウンドへ瞬時にアクセスできることが大切です。お気に入りのトーン10種を素早く呼び出すには、**ギター・モデル・セレクター**・ノブ上の2つのカスタム・バンクを活用してください。

モデル・セレクト・ノブの最初の位置が**CUSTOM 1**、最後の位置が**CUSTOM 2**です。それぞれに5種類の気に入ったギター・モデルだけではなく、トーンやオルタネート・チューニング(前もってオルタネート・チューニング・ノブを**MODEL**に設定した状態)も保存できます。例えばアコースティックの音色を**CUSTOM 1**に、エレクトリックの音色を**CUSTOM 2**にと使い分けることもできます。

例えば、これから何度も使いたいと思うような気に入ったサウンドが見つかったら、以下のようにしましょう:

1. それが本当にとっておきたいサウンドかどうか確認することをお忘れなく。以下の手順でギター・モデルとトーン・ノブのセッティングを保存します。
2. **ギター・モデル・セレクター**・ノブを2.5秒間押すか、またはカスタマイズ・モードに入ったことを示すLEDが点滅するまで長押しします。
3. 次に**ギター・モデル・セレクター**を回して**CUSTOM 1**、または**CUSTOM 2**のどちらかを選びます。オルタネート・チューニングLEDは消灯します。
4. サウンドを保存したいポジションへ**ピックアップ・セレクター・スイッチ**を動かします。**JTV-59ユーザーの場合**:まずオルタネート・チューニング・ノブを押し、次に**ピックアップ・セレクター・スイッチ**を動かしてポジション2、4にアクセスします。
5. この位置にオルタネート・チューニングを保存する場合は、オルタネート・チューニング・ノブでお気に入りのチューニングを選びます。**オルタネート・チューニング**が不要であれば、この手順をスキップしてください。
6. **ギター・モデル・セレクター**・ノブを2.5秒間押しします。これでカスタム・バンクにあなたの選んだ最初のギター・モデルが保存されました! 保存した通りのチューニングを呼び出したい場合は、**オルタネート・チューニング・ノブ**を**MODEL**に設定するのを忘れないでください。

カスタムのオルタネート・チューニングを作成

Variacに搭載されているオルタネート・チューニングは非常にパワフルなツールであり、一般的なチューニング10種類が**オルタネート・チューニング・ノブ**で選択できるよう用意されています。カポの代わりにこの機能を使うようなユーザーにとっては、まだ不足しているかもしれませんが、その解決策も用意されているので、ご心配なく。**オルタネート・チューニング・ノブ**に保存されている**MODEL**と**STANDARD**以外の全セッティングを、お気に入りのチューニングと入れ替えることができます。

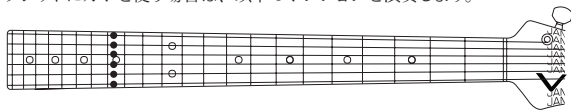
その方法は以下のとおりです。

1. **ギター・モデル・セレクター**を6弦ギター・モデルのいずれかに設定し、440 Hzを基準とするスタンダード・チューニングになっていることを確認します。
2. **ギター・モデル・セレクター・ノブ**を押し続け、LEDが点滅してカスタマイズ・モードに入ったことを知らせるまで2.5秒ほど長押しします。
3. **オルタネート・チューニング・ノブ**上の、置き換えたいポジションを選択します。**注意**:既にそのポジションが選択されている場合は、一度違う位置に動かしてから戻すことで、カスタマイズ・モードがその場所を認識するようにします。**オルタネート・チューニングLED**のみが点滅します。
4. 変更したい各弦を一度ずつ鳴らすことで、オルタネート・チューニングを新規に作成できます。カスタマイズ・モードでは12フレットが0フレット(ナット)と見なされるため、10フレットを鳴らすと弦のチューニングが全音下に、14フレットを鳴らすとチューニングは全音上になります。チューニングの作業中は、ネック上を移動中に不要な音を鳴らさないよう、注意深くミュートしないと、アサインが変更される場合があります。クリーンにフレットを押さえていれば、全てのノートを同時に弾くこともできます。

オープンDチューニングをする際には、以下のポジションを演奏します:



3フレットにカポを使う場合は、以下のポジションを演奏します。



5. **ギター・モデル・セレクター・ノブ**を軽く押してすぐ離すと、オーディション・モードに入ります。自分のチューニングを聴いてみましょう。思い通りのサウンドであれば、6に進みます。調整したい場合は、**ギター・モデル・セレクター**を押してすぐ離し、3の手順に戻ってください。オルタネート・チューニングのカスタマイズを中止する場合は**オルタネート・チューニング・ノブ**を回します。
6. **ギター・モデル・セレクター・ノブ**を、**オルタネート・チューニングLED**の点滅が止まるまで2.5秒間ほど長押しすると、新しいチューニングが保存されます。

ファクトリー・リセット・オプション

何らかの理由により、**ギター・モデル・セレクター・ノブ**に設定されている50*種類の初期設定、あるいは**オルタネート・チューニング・ノブ/ローラー**に設定されている特定のプリセットや全てのプリセットを復元したい場合は、以下の手順で行ってください。**警告**:これにより以下のオプション内に記載されている設定全てが消去されることとなります。従って、初期設定の状態に復元される場合は、問題がないかどうか十分に考慮してから操作を行ってください。

***注意**:ファクトリー・リセットを行ってもCustom 1、またはCustom 2バンクは復元されません。これらを初期設定に復元させる唯一の方法は、Line 6 Monkeyを通じてフラッシュメモリーを再読み込みすることです。

ギター・モデル・セレクターをリセットする場合

ビックアップ・セレクター・スイッチをセンター位置に設定し、**ギター・モデル・セレクター・ノブ**を押したまま、ギターに1/4インチ・ケーブルを接続して、電源を入れます。**ギター・モデル・セレクター**のLEDと**オルタネート・チューニング**のLEDの両方が赤く点滅します。次に**ギター・モデル・セレクター・ノブ**を長押しします。**ギター・モデル・セレクターLED**が速い速度で3回、赤く点滅し、**モデル・セレクター・ノブ**のメモリー位置の中で50種類の**ギター・モデル**全てが初期設定に戻ったことを示します。これでギターは通常の操作状態に戻ります。

オルタネート・チューニング・プリセットの1種類、あるいは全てをリセットする場合

まずピックアップ・セレクター・スイッチをセンターの位置に設定し、ギター・モデル・セレクタ・ノブを押したまま、ギターに1/4インチ・ケーブルを接続して、電源を入れます。**ギター・モデル・セレクターのLEDとオルタネート・チューニングのLEDの両方が赤く点滅**します。オルタネート・チューニング・ノブ/ローラーを、新たに任意の位置に切り替えます。ギター・モデル・セレクタのLEDは消灯します。全てのオルタネート・チューニングを復元する場合は、オルタネート・チューニング・ノブでMODELを選びます。1つのプリセットだけを復元したい場合は、オルタネート・チューニング・ノブでその任意の場所にあるチューニングを選択します。選択が終わったら、ギター・モデル・セレクタ・ノブを長押しします。ギター・モデル・セレクターのLEDが速い速度で3回、赤く点滅し、モデル・セレクター・ノブのメモリーの中で10種類のオルタネート・チューニング全て、あるいは選択した1つが初期設定に戻ったことを示します。これでギターは通常の操作状態に戻ります。

Variaxの中にロードされているオルタネート・チューニングの初期設定は以下の通りです：

| JTV-59 & JTV-69ファクトリー・オルタネート・チューニング | |
|-------------------------------------|---|
| 名称 | チューニングの詳細(最低音から順番に) |
| STANDARD | E A D G B E |
| DROP D | D A D G B E |
| 1/2 DOWN | E \flat A \flat D \flat G \flat B \flat E \flat |
| DROP D \flat | D \flat A \flat E \flat G \flat B \flat E \flat |
| 1 DOWN | D G C F A D |
| DADGAD | D A D G A D |
| OPEN D | D A D F \sharp A D |
| BLUES G | D G D G B D |
| RESO G | G B D G B D |
| OPEN A | E A C \sharp E A E |
| BARITONE | B E A D F \sharp B |

| JTV-89ファクトリー・オルタネート・チューニング | |
|----------------------------|---|
| 名称 | チューニングの詳細(最低音から順番に) |
| STANDARD | E A D G B E |
| DROP D | D A D G B E |
| 1/2 DOWN | E \flat A \flat D \flat G \flat B \flat E \flat |
| DROP D \flat | D \flat A \flat E \flat G \flat B \flat E \flat |
| 1 DOWN | D G C F A D |
| DROP C | C G C F A D |
| m3 DOWN | D \flat G \flat B E A \flat D \flat |
| DROP B | B \flat G \flat B E A \flat D \flat |
| M3 DOWN | C F B \flat E \flat G C |
| DROP B \flat | B \flat F B \flat E \flat G C |
| BARITONE | B E A D F \sharp B |